

座間味村教育大綱

令和6年7月

沖縄県座間味村

1. 大綱策定の趣旨

村長と教育委員会の連携の強化を図り、それぞれの施策をより一体的に推進するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づき、座間味村の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について施策展開の方針を定める。

2. 計画の期間

本大綱の期間は、「座間味村第五次総合計画」（令和5年3月策定）と整合を図るため、令和6年度から令和13年度までとする。

なお、本村の教育を取り巻く状況の変化や総合計画の改定等がある場合、本大綱の見直し有無について適宜検討する。

3. 目標

- 島ぬ宝！子供にやさしい地域づくり
- 個性輝く多様性のある地域づくり
- 未来へ伝える地域の歴史・文化
- 交流と共生の村づくり

4. 施策の展開

(1) 島ぬ宝！子どもにやさしい地域づくり

座間味村は三つの有人島からなる行政区であり、教育の拠点施設となる学校施設は各島に幼小中学校の併置校として設置され（慶留間幼稚園に関しては休園中）、各校ごとにその地域特色を生かした学校経営が展開されている。

「村づくりは人づくりから」と説いた本村の初代村長・松田和三郎翁に倣い、家庭、地域、学校、行政が一体となって子どもたちの教育環境をつくるとともに、外部との連携による人材確保やICTを積極的に活用した学校教育の推進により、次世代を担う子どもたちが成長していく喜びを共有できる施策を展開する。

① 幼小中学校教育の充実

離島へき地校の特色と、三つの島それぞれの特性を活かした教育活動を家庭、地域、学校、行政が一体となって推進し、幼児児童生徒の健全育成と学力向上につなげるため、教育に関する情報公開に努める。

また、保護者の経済的負担を軽減するため、村外への派遣事業を積極的に支援するとともに、姉妹村との交流をはじめ海外ホームステイ事業の実施やALTの配置など、多様な社会に順応し、主体的に行動できる人材育成に努める。

②家庭による教育活動の促進

観光業などの就業者が9割を超え、夏場の繁忙期等により親子が一緒に過ごす時間を確保しづらい家庭の現状を踏まえ、児童・生徒家庭学習休暇制度により、学校では得られない家族で過ごす時間を通じた子どもたちの健やかな心の成長を支援する。

③ICTを活用した先進的な学校教育の推進

多様化する情報社会の中、学校教育においてICTを活用した学習活動を推進し、一人一人の個性に合わせた教育を実現するため、プログラミング教育や情報モラル教育など情報活用能力の向上に取り組む。

(2) 個性輝く多様性のある地域づくり

急速に変化する社会の中で豊かな人生を切り拓くために、学力等の認知能力と合わせ、目標や意欲、関心を持ち、粘り強く仲間と協調して取り組む力や姿勢等の非認知能力を育成するとともに、キャリア教育の視点に立ち、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、自己実現できる能力を育成する施策を展開する。

①学力向上対策の推進

本村の特性（少人数・複式改善学級・学習支援員）を活かした教育体制を通して、児童生徒に即した細やかな教育活動を通じた学力向上を推進する。

また、三校それぞれの特性（地域人材や環境等）に沿った特色ある学習活動を支援する。

②豊かな心を育む活動の推進

清掃活動や、各校において実施される環境学習等を通して、本村でしか学べない体験（授業）を提供し、児童生徒の豊かな心を育む体験活動・ボランティア活動等を推進する。

③自己実現を支える奨学金制度の推進

将来の本村を担う学ぶ意欲のある生徒が経済的な理由で学びを断念することのないよう奨学金制度を継続する。また、児童・生徒の人間性や社会性の成長に向けて島外で開催される各種スポーツ大会及び文化活動等への渡航費用等の支援を行う。

④校舎等の修繕並びに改築への取組み

幼児児童生徒が安心、安全に学べる環境づくりとして、経年劣化等により危険になり得る

箇所の早期の発見並びに修繕に努めるほか、老朽化した校舎の改築に向けて取り組む。

⑤社会スポーツの充実

子どもから高齢者まで誰もが気軽にスポーツに親しみ、かつスポーツを通じた世代間交流ができるよう、三島住民の交流機会創出に努める。また、セーリングに代表される日本代表等のアスリートキャンプや合宿への積極的な誘致により、一流アスリート等と村内児童生徒との交流を通じて夢や努力の大切さを学ぶ場を提供する。

⑥キャリア教育の機会創出

中学卒業まで広い社会や多種多様な職業に触れる機会の制約を解消し、子どもたちが視野を広げ、夢を描く手助けとなるようなキャリア教育の機会を島外の企業や組織等の協力を得て積極的に提供する。

(3) 未来へ伝える地域の歴史・文化

唐船の船乗りを多く輩出した海の民としての誇り高い歴史、鰹漁業の産業化や、世界的なダイビングポイントとなるなど進取の気性で産業を興してきた歴史、またかつては久高島と並び称された信仰篤い側面など、すべてが現代の島に生きる私たちの暮らしをかたちづくっている。島の歴史・文化を学び、先人を尊び、本村の持続可能な発展とともに歴史・文化を繋げる施策を展開する。

①文化財保護

有形無形の文化財を適切に保護し、歴史文化・健康づくりセンターでの展示による学びの場の提供を通じて、本村の文化遺産から島の歴史先人の功績について見識を深め、自分が生まれ育った島、生きる島への誇りと自信の愛着と誇りを醸成する。

②伝統文化継承

阿嘉区の獅子舞、座間味区の流れ舟(ナガリブニ)、海御願(阿嘉・慶留間では海ぬ御願)など各区に残る伝統行事を記録媒体で記録する活動を継続するほか、各区及び各区青年会等が主体となって子どもたちの参加を促すことで、記録と記憶による次世代に向けた継承に取り組む。また、神事の担い手である島の女性たちの高齢化に伴い、継承の方策を講じていく。

(4) 交流と共生の村づくり

島外より年間10万人もの人が訪れる本村は、座間味島、阿嘉島、慶留間島の三島に分かれて生活する村民のそれぞれの相互理解のもと、豊かな地域資源を維持し、歴史・文化を伝承し、平和を希求する心を内外へ発信し続ける社会的な価値を担っている。将来の本村を担う子どもたちが、異なる風土や習慣で生活する人たちと交流し、受入れ、共生できる能力を

育成する能力を育成する施策を展開する。

①三校の交流促進

三つの島に分かれて学ぶ各校の子どもたちが、幼小中学校時代より相互の島の特性を理解し信頼や友情を深め、将来の地域コミュニティの形成を担う人材への成長を促すため、三校交流事業（スポーツ大会、合同学習、体験学習等）を継続的に取り組む。

②平和学習教育

沖縄戦における最初の米軍上陸地として戦禍を経験した本村は、平和の発信地としての役割を担っている。本村の児童・生徒や島外より訪れる修学旅行生への平和学習の機会を充実させるため、村内に点在する戦跡の活用、専門のガイドを育成するほか、県平和祈念資料館の座間味分館設置の実現に向けて取り組む。

③国内外との交流促進

子どもたちの視野を広げ社会性を養成するため、姉妹都市である婦恋村との中学校間の交流事業を継続的に取り組む。その他、ホームステイ事業並びにオンラインでの国際交流学習など本村から広がる人的ネットワークや関係機関等との連携強化を図り、また、研修生の受入れなどによる国内外との交流と国際化への対応に取り組む。